

宇都宮市立豊郷中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○質問番号1(1)～(6)の家庭学習についての項目「家で、自分で計画を立てて勉強をしている・学校の宿題をしている・学校の授業の予習をしている・学校の授業の復習をしている・テストで間違えた問題について勉強をしている・学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」では、どの質問に対しても肯定的な意見の割合が県や市の平均を10ポイント前後上回っている。充実した家庭学習が行われていることが分かる。家庭内の支援や家庭学習ノートの活用、小学校時代に習慣化されたことが原因と考えられる。特に授業の予習をしている割合は、県・市の平均が45ポイント前後と5割を切っているのに対し本校は63.5ポイントと大きく上回った。

●質問番号5(28)「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」では肯定的な回答の割合が県・市の平均よりわずかに下回っている。本校の肯定的な回答の割合は94.4ポイントであった。これは、授業においてその目標が全員に伝わっていないことを示している。生徒一人一人に正確に伝えられるよう、授業のはじめに目標ややるべき内容をさらに丁寧に説明する必要がある。教師には生徒全員が授業の目標や学習内容を理解しているか確認を行い、許される時間の中で必要であれば補足説明を行うなど工夫をし、改善を図ることが求められる。同様に質問5(30)「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答も県・市の平均を下回っている。これは、上記の状態が改善すれば、ノートへの書き込みも増えると考えられる。

○質問番号5(40)「学校のきまりを守っている」については、ほとんどの生徒(99.3ポイント)が肯定的に答えている。つまり、学校の決まりを理解し、一人一人がその決まりを守ろうと意識しているということである。今、学校の規則(校則)、特に生徒の生活面に関するきまりについて、全国的に見直しの動きが盛んになってきている。もし、本校でも見直しの話合いがはじまった時には、このアンケートの結果なども参考にできるだろう。個人的な欲求を優先するのではなく、生徒一人一人の考えだけでなく、学校や地域全体のことなど総合的に考えてどのようなルールが適当なのか、本校の生徒は自ら考えられるであろうことが、このアンケート全体から感じられる。

●質問番号6(48)「ふだん(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」の質問では、本校は県・市の平均とほぼ変わらず2時間より多く答えている生徒の割合が約44ポイントであった。約半数の生徒は毎日2時間以上ゲームをしていることになる。これからの課題として、そうしたゲームやSNSなどの情報コンテンツの利用も含め、どこまで学校でかかわることができるか検討の必要がある。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて次の目標達成を目指す。 ①言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成。 ②学力向上を目指し家庭及び地域学校園と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現。	・指導目標を明確にし、指導内容の充実にも努める。 ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ・望ましい学習態度の育成に努める。 ・「グローバル社会」に対応する教育の推進に努める。 ・各教科・領域、家庭・地域との連携に努める。	「授業の中で、目標が示されている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が64.1%で、県の平均を12.7ポイント、市の平均を5.9ポイント下回っている。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が39.3%で、県の平均を1.1ポイント、市の平均を5.9ポイント上回っている。 「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問項目について、「はい」と回答した割合が24.8%で県の平均を2.9ポイント、市の平均を7.4ポイント下回っている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が57.2%で県の平均を11.9、市の平均を10.2ポイント上回っている。 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が42.8%で県の平均を7ポイント、市の平均を5.1ポイント上回っている。 「家の人と学習について話をしている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が52.4%で県の平均を6.6ポイント上回り、市の平均を0.7ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問項目については県や市の平均を上回っているのに対し、「授業の中で、目標が示されている」という質問項目について、「はい」と回答した割合が64.1%で、県の平均を12.7ポイント、市の平均を5.9ポイント下回っている。 「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問項目については県や市の平均を上回っているのに対し、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」という質問項目について、「はい」と回答した割合が24.8%で県の平均を2.9ポイント、市の平均を7.4ポイント下回っている。	・授業開始時の「学習課題」の提示及び授業終末時のまとめ・振り返りの工夫。 ・興味・関心の喚起、言語活動の充実から学力を向上させるための授業の工夫。	振り返りはできていると感じていることから、どれが目標なのか、具体的につかめていない可能性があるため、目標(めあて)を、授業の始めに生徒に分かりやすい言葉で、明確に提示していく必要がある。教科間、学年間で、客観的に授業を見合う相互授業参観の推進を更に図る。 授業で行う言語活動において、自分の考えを話し合うだけでなく、文章で書くという表現活動も多く取り入れていく必要がある。